

北海道中川郡豊頃町にアサガオガイとヒメルリガイが漂着

小林 真樹¹

Janthina janthina and *Janthina (Iodina) umbilicata* stranded on the beach of Toyokoro-cho, Nakagawa-gun, Hokkaido

Maki KOBAYASHI¹

アサガオガイ *Janthina janthina*, ヒメルリガイ *Janthina (Iodina) umbilicata* は、ともに翼舌目アサガオガイ科に属する巻貝である。全世界の暖流域に生息し、粘膜泡で海面に筏を作り、浮遊生活をする事が知られている(奥谷 2000)。日本周辺海域でも、アサガオガイ科の巻貝は台風や低気圧の後にしばしば漂着する(石井 1999)。北海道においては、同じアサガオガイ科のルリガイ *Janthia (Violetta) prolongata* が、日本海側の石狩浜(鈴木・志賀 2008)、津軽海峡側の大森浜(鈴木・山崎 2008)ですでに報告されている。今回北海道太平洋側の中川郡豊頃町の海岸でアサガオガイ、ヒメルリガイの漂着を確認したので報告する。

2015年7月30日北海道中川郡豊頃町大津海岸(図1)で、アサガオガイ *Janthina janthina*, ヒメルリガイ *Janthina (Iodina) umbilicata* 各1個体採集した。この海岸は中川郡豊頃町大津(十勝川左岸)から十勝郡浦幌町(浦幌十勝川右岸)に続いており、全長4 kmに及ぶ砂浜海岸である。今回砂浜の中央部付近から浦幌十勝川側に向かって往復4 kmを歩いた中で発見した。

2種類の貝はいずれも漂着した海藻類のすき間に

あった。生きていた時にみられる浮き袋状の粘膜泡や生体部分についてはおらず、貝殻のみであった。貝殻を見つけた周辺の海藻に付着していないか探したが、見つけることができなかった。また普段は暖流域に生息して浮遊生活をしているギンカクラゲ、カツオノエボシ、カツオノカンムリなどを探したが、今回は確認できなかった。

アサガオガイ(図2右)は、完全な貝殻で、殻長8.7mm, 殻径11.8mm。ヒメルリガイ(図2左)も、ほぼ完全な貝殻で、殻長8.4mm, 殻径7.8mm。

なお、記録をまとめるにあたり、北海道教育大学札幌校鈴木明彦教授から数々のご教示をいただいたので、御礼を申し上げる。

引用文献

- 石井 忠. 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
奥谷喬司. 2000. アサガオガイ科. 奥谷喬司(編著). 日本近海産貝類図鑑, pp.318-319. 東海大学出版会, 東京.
鈴木明彦・志賀健司. 2008. 2007年秋における北海道石狩浜へのルリガイの漂着. ちりぼたん 39: 22-24.
鈴木明彦・山崎友資. 2008. 1994年秋における北海道大森浜へのルリガイの大量漂着. 漂着物学会誌 6: 1-4.

(Received Aug. 31, 2015; accepted Sept. 24, 2015)



図1 北海道豊頃町大津海岸の位置。

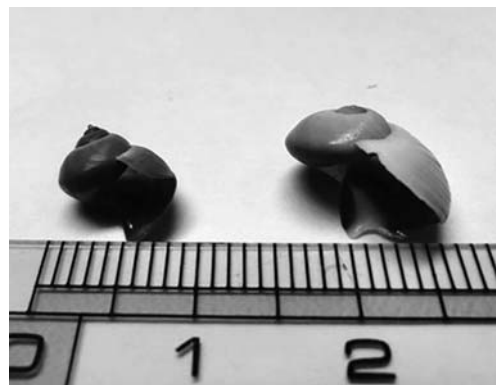


図2 大津海岸に漂着したアサガオガイとヒメルリガイ。

¹〒080-0846 帯広市緑ヶ丘2条通り6-10

¹ 2-6-10 Midorigaoka, Obihiro City, Hokkaido 080-0846, Japan